第12回コンクリート構造物の 補修、補強、アップグレードシンポジウム[†]

山本 貴士*

The 12th JSMS Symposium on Concrete Structure Scenarios

by

Takashi YAMAMOTO*

21世紀に突入して以降、確実に少子高齢化および就業人口減少が進んでいるわが国の社会資本整備は、これまでの新設重視から維持管理重視へと確実に移行しつつある。しかし、不幸にも平成24年12月に中央自動車道笹子トンネルにて天井版の崩落事故が発生した。構造物や施設の供用長期化に伴うこのような事態を防ぐためにも、戦略的な維持管理計画とその確実な実践が必要不可欠であることが再認識された。

このような状況の中、コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウムは、同論文報告集の発刊を含めて、2001年に第1回を開催して以来、2012年で十二支一回りの第12回を迎えた。なお、シンポジウムの詳しい内容および経緯については、第60巻第2号の国内外トピックスに記されているので参照いただきたい。

第12回のシンポジウムに併せて発刊した論文報告集には、90件近くの投稿があり、厳正な査読、審議の結果、最終的に76件の論文・報告が掲載された。維持管理の重要性の高まりとともに、本シンポジウムと論文報告集が広く認知されるに至った結果であると考えられる。論文報告集に掲載された論文および報告のうち、40歳以下の若手を対象として、その内容とシンポジウムでの発表技術を総合して授与される優秀論文(報告)賞は、堀 慎一(鉄道総合技術研究所)、吉田隆浩(西日本旅客鉄道)、平石陽一(倉敷紡績)、小倉大季(清水建設)、久保善司(金沢大学)、中嶋亮介(関西大学)の6名であった。また、第10回で新たに設けた、論文の内容のみを審査の対象とし、その論文の著者全員に授与される最優秀論文賞は、「長期曝露供試体を用いた電気防食工法の性能評価に関する実験」の山本 誠(住友大阪セメント)、青山敏幸(ピーエス三

菱)、山本 悟(日本防蝕工業)、内藤英晴(五洋建設)、佐野清史(東洋建設)の各位に贈られた。この論文は、実橋梁から撤去した実際の部材に対して電気防食工法を適用し、10年間の曝露実験および追跡調査から得られた貴重な結果を取りまとめたものである。最新技術の研究や開発だけでなく、適用後の長期にわたる性能の把握が行われており、本シンポジウムおよび論文報告集が期待する時間軸を考慮した維持管理シナリオの実現に大いに貢献するものであることが評価された。

一方、今回より工事報告(ポスターセッション)を刷新して、機器や材料などの展示も可とする技術・工事報告として再出発し、10件のポスター発表が行われた。(図1)

招待講演では、「第2世代の社会資本アセットマネジメント～岐阜での仕組みづくりと人材育成～」と題して、テレビ番組「世界一受けたい授業」への出演でも有名な、高木朗義氏(岐阜大学工学部社会基盤工学科教授(兼同大学社会資本アセットマネジメント技術研究センター長))に講演いただいた。ユニークな語り口とともに、アセットマネジメントの今後のあり方について有意義な内容が講述された。(図2)

第13回は、2013年11月8日(金)に京都で予定されている。論文・報告の投稿申込み締切りは、例年通り3月下旬に予定されているので奮ってご投稿いただきたい。詳しくは、会誌の会告およびコンクリート工事用樹脂部門委員会のウェブサイト(<http://conresin.jsms.jp/>)にてアナウンスする。

本シンポジウムおよび論文報告集の継続が、長持ちするコンクリート構造物を生み出し、次世代の安心できる社会の実現に貢献できることを願っている。

図1 ポスターセッション

図2 招待講演

[†] 原稿受理 平成24年12月7日 Received Dec. 7, 2012 ©2013 The Society of Materials Science, Japan

* 正会員 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 〒615-8540 京都市西京区京都大学桂, Dept. of Civil and Earth Resources Eng., Kyoto Univ., Nishikyo-ku, Kyoto, 615-8540